

# 安土城考古博物館展示見直しについて

教育・文化スポーツ常任委員会資料3  
令和3年(2021年)2月10日  
文化スポーツ部文化財保護課

## 第1章 リニューアルの背景

1-1博物館の理念・1-2現況・1-3博物館の強み・1-4利用者のニーズ・1-5課題

### 館の歴史と設立主旨

昭和45年 近江風土記の丘資料館として開館  
平成4年 滋賀県立安土城考古博物館として開館  
位置づけ:風土記の丘を構成する4つの史跡をテーマに活動。城と考古のテーマ博物館

### 入館者の推移

平成6年(8.5万人)をピーク 近年は4万人前後  
近年は安土城跡より2.4万～3.2万、信長の館より2.2万～2.7万人入館者が少ない。

### 館の強み

豊富な収蔵品:戦国・織豊期のコレクション、摺見寺の寄託品  
立地:戦国末・織豊期の近江の拠点城郭が近所に存在  
豊富な展覧会実績:城と考古をテーマに固定ファン有り

### 社会情勢の変化

人口減少 高齢化 訪日外国人の増加 コロナの流行  
文化財保護法の改正・文化財保存活用大綱の策定  
保護と活用のバランス「保存なくして活用なし」

### 利用者のニーズ

来館者の中核:県外 男性 中高年 リピーター率3割  
9割の利用者が展示内容に満足 アンケートでは展示コンセプト、展示内容や展示手法の問題点を指摘

### 課題

「幻の安土城」復元プロジェクトの中核施設としての機能強化が必要

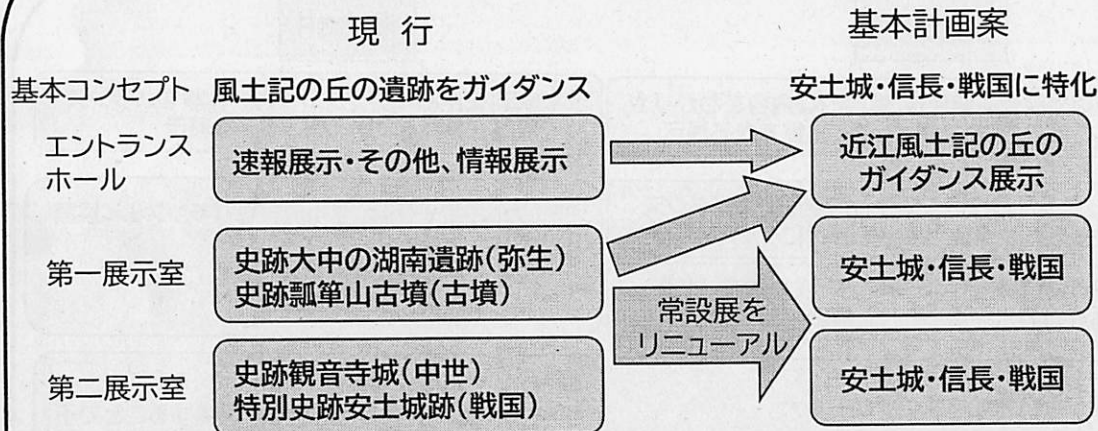
- ①利用者ニーズとの乖離:展示コンセプト・テーマがそぐわない
- ②設備・展示物が老朽化:最新の調査研究成果が反映されていない。手法が陳腐。
- ③公開承認施設の機能維持:空間環境、設備・展示ケース
- ④利用者サービスの充実:多言語対応、オンラインコンテンツの充実
- ⑤集客性の向上:安土城との連携強化

### 見直しについての有識者の意見

- ・集客には思い切った方向転換が必要。
- ・安土城の最新の調査研究成果を反映した展示をすべき。
- ・安土城の展示は、他ではできない、滋賀県でしかできないこと。役割を明確に。
- ・戦国織豊期の館蔵コレクションをもっと活用した展示を。
- ・ターゲットの明確化。中高年男性に加え、家族づれ子どもを取り込むことが必要。
- ・ヴァーチャルなど新しい展示手法を取り入れ、子どもたちとその家族を取り込むこと。
- ・学校の活動へむけ周辺施設や史跡との連携し長時間滞在が可能、体験学習ができる場に。

## 第2章 リニューアルの基本方針

2-1基本的な考え方・2-2基本方針



### 特化を選択した理由

施設規模の制約が大きいことから、課題を解決するには、テーマを絞り、ここ安土でしかできない、ここならではの特性ある博物館・展示とせざるを得ないと判断。

### リニューアルの効果・メリット

- ・プロジェクトの中核施設としての機能強化が図れる
- ・利用者ニーズとの乖離が解消でき、集客向上が見込める
- ・安土城の最新の調査研究成果を反映した展示が提供できる
- ・デジタル等最新技術を使用した展示としてリスタートできる

### デメリットへの対応

- ・近江風土記の丘ガイダンス機能が低下。  
→エントランスホールを活用しガイダンス機能を強化

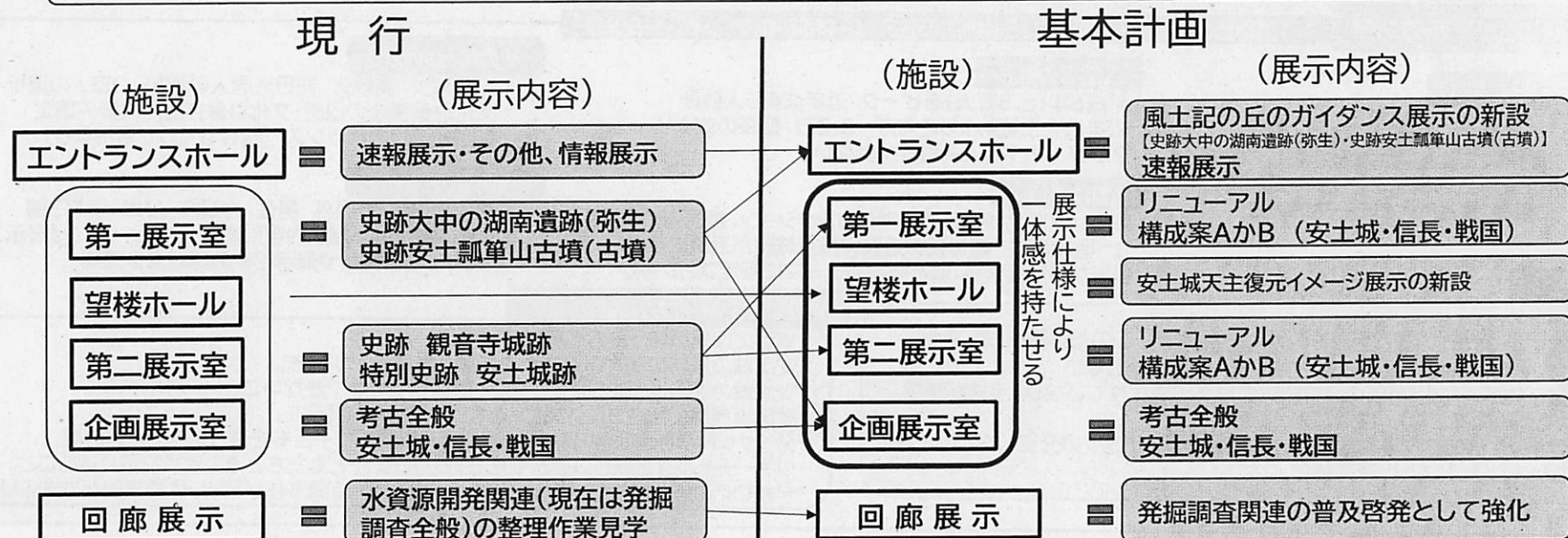
### ターゲット

子ども・ファミリー  
地域住民・県民

県外、そして世界の人々

安土城と信長・戦国をテーマとする唯一無二の博物館として、その情報・魅力を発信する拠点へ

基本コンセプトを「安土城・信長・戦国」に特化することによる、館全体の展示活動の方向性と整備範囲の考え方の整理



### 第3章 展示計画

#### 3-1基本方針

- ・わかりやすく、楽しく伝える展示
  - ・現地と一体性のある展示
  - ・県民との連携および来館者の参画を促す展示
  - ・何度来ても発見のある展示
- 安土城・信長・戦国の世界を体感できる展示

#### 3-2・3-3展示構成

#### 構成案A

#### 構成案B

#### コンセプト

デジタル技術や映像を駆使し、専門的な内容をわかりやすく紹介するとともに、ファンも深く鑑賞できる展示

実物資料を中心にデジタル・映像・体験をバランスよく展開・併用したオーソドックスな展示

#### 第一展示室

シアター等、デジタル技術を駆使した空間でガイダンス空間全体を使った映像演出で戦国時代にタイムスリップ

デジタル技術や体験、実物資料をバランスよく展開

#### 第二展示室

資料を活用した鑑賞空間 テーマ: 安土城・信長・戦国  
多様な実物資料展示を中心とした展示

テーマ 第1常設展示室: 信長・戦国  
第2常設展示室: 安土城

#### メリット

展示リニューアルのインパクト大  
歴史に興味がない若年層へのアピール大  
メリハリが付く  
実物資料の管理が容易

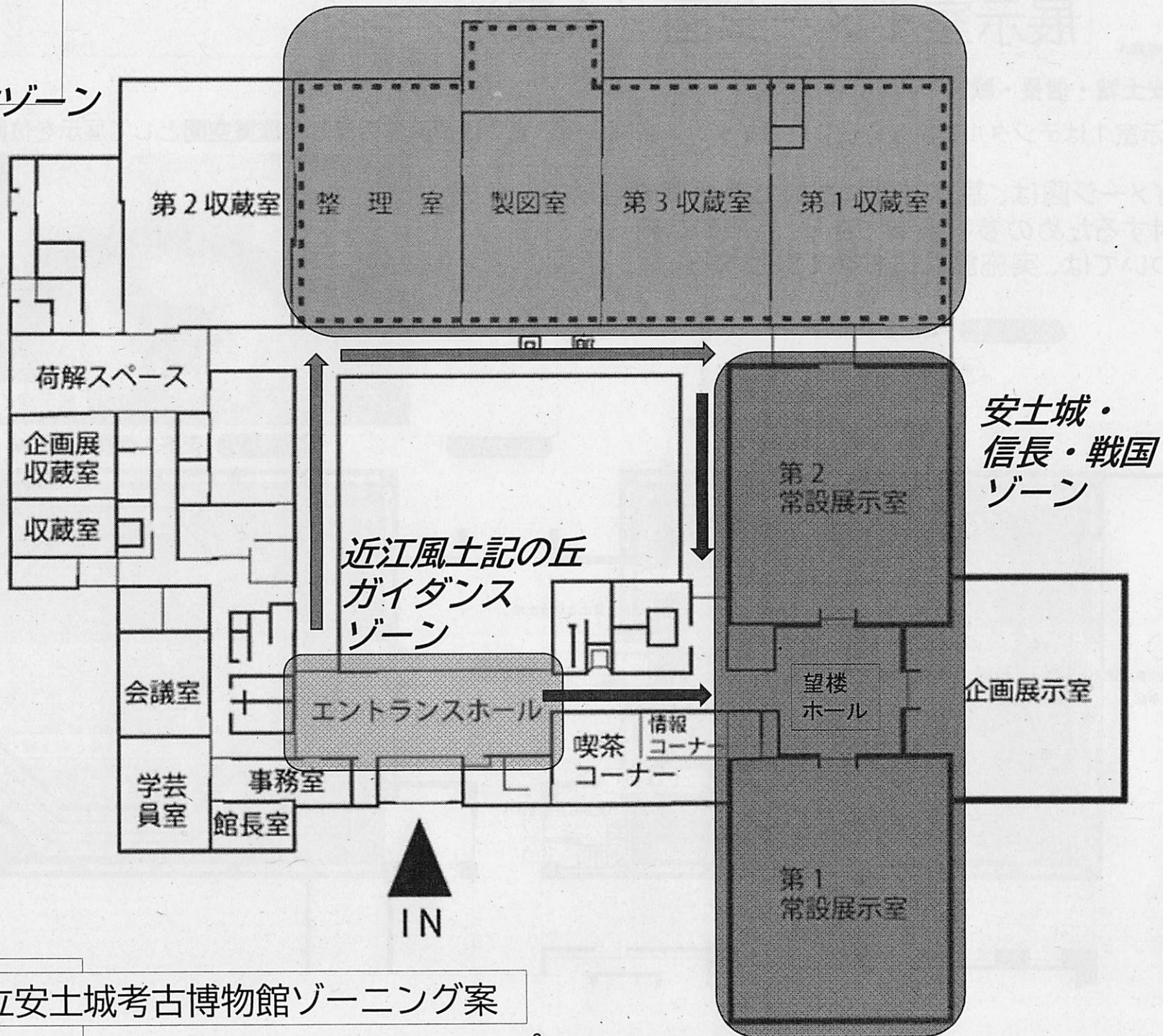
展示としての安定感あり  
デジタル・体験を各室に万遍なく配置することで子どもでも最後まで飽きずに鑑賞できる

#### デメリット

定期的なコンテンツの更新が必要  
実物資料中心の第二展示室は子どもへの訴求力が弱い

インパクトのある目玉展示がない  
実物資料・映像が散在しているため、それぞれへの訴求力が弱い

考古ゾーン



滋賀県立安土城考古博物館ゾーニング案

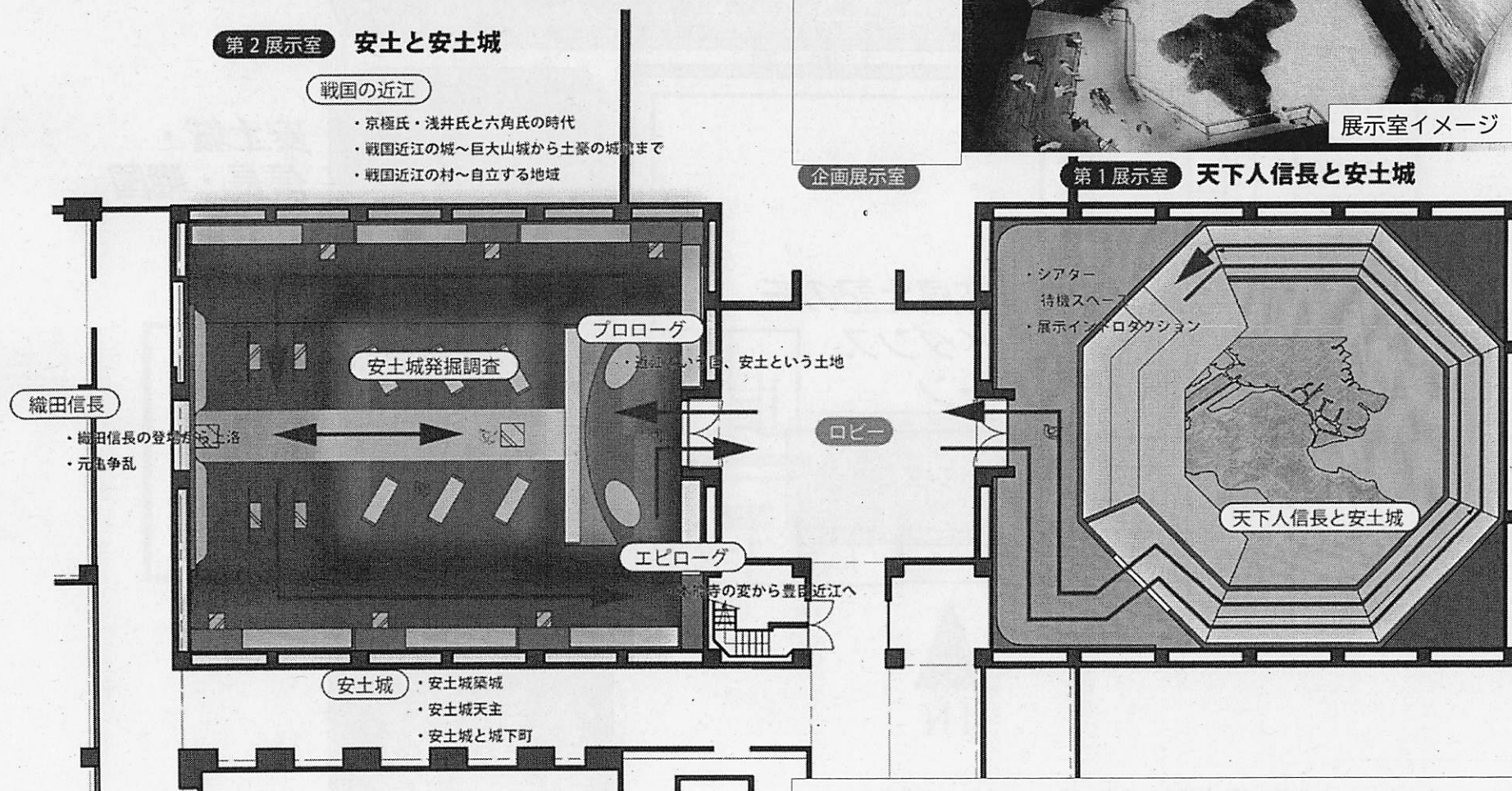
# 展示室イメージ図 (A案)

SCALE  
1:150

‘安土城・信長・戦国’で展示を一本化！

展示室1はデジタル技術を駆使したガイドンス空間、展示室2は資料を活用した鑑賞空間として展示を位置づけ！

※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定する。

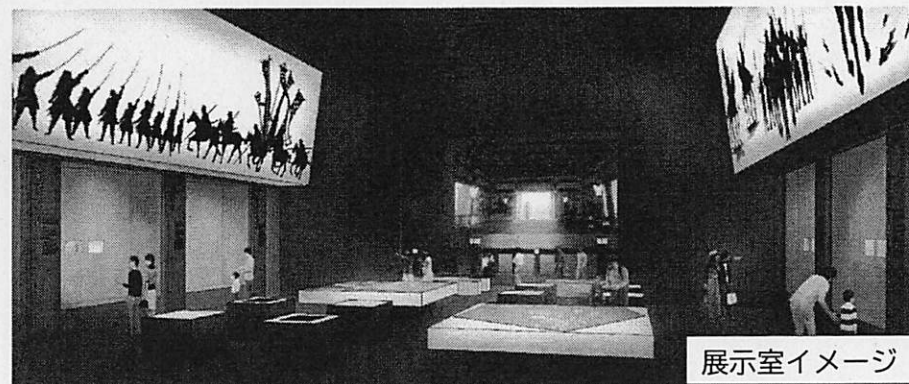


# 展示室イメージ図 (B案)

SCALE  
1:150

第1展示室は「信長・戦国」を、第2展示室は「安土城」をテーマに、  
デジタル技術や体験、実物資料をバランスよく展開！

※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定する。



展示室イメージ

